

日本の更生保護のこころを世界に

岐阜保護観察所 保護司 出口 満知子

今回、アジ研の国際研修参加の連絡をいただき、現在保護司会の会長として、保護司会や保護司の活動に意義を感じ、保護司会の仲間と共に達成感を共有し、ともに学び、支え合う中で、アジ研に参加することで、現代の活動幅の広がった日本の保護司活動について、ぜひ外国に向けて発信したいとの思いを強く持ちました。

保護司アジ研協力会のメンバーとして、これまでも何度かアジ研に行ったことがありましたし、研修前のレポート作成のため担当教官と電話のやり取りもあり、受話器を通して感じるお人柄に安心し、当日を楽しみに準備を進めました。

余裕を持ってその時を迎えたつもりでしたが、やはり厳かな研修会場の雰囲気緊張し、意見発表が的確に行えたかどうかは今も自信のないところです。

研修ではたくさんの外国の研修生の皆さんと、是非、交流を図りたいとの思いでいたるところ、夕食の席で隣り合わせたナウル共和国の研修生からは自国の実情をお聞きすることができました。彼は、今回の研修に参加した私たち日本の保護司が、高齢にもかかわらず積極的に活動していることに大変驚かれました。彼の国の唯一ある刑務所には、10名余りの受刑者が収容されており、世界的な高齢化にはほど遠い国があることを認識しました。

また、フィリピンを始めアジアの諸外国において、アジ研の研修等を通じて保護司制度が確立していることを聞き、保護司制度については先進国である私たち日本の保護司がお手本となるべく活動をしていかなければならないと意を新たにしました。

私は既に保護司アジ研協力会の会員として、細々とですが皆さんと一緒に活動しています。保護司国際研修に参加された皆さんは、一度の研修の参加に終わらせず、保護司アジ研協力会に参加することをお勧めします。同会に参加することにより、地域の保護司会のことだけでなく、日本全国に仲間ができ様々な保護司会の実情を知り、その交流会が新たな学びの場となります。

今回の研修でまた新たな出会いをいただきました。この出会いを大切にし、同じ志を持った者の輪が世界に広がっていくことを願っています。